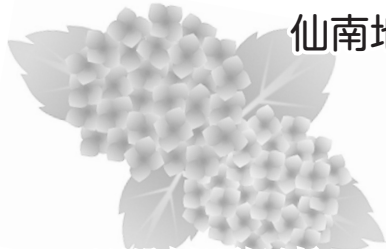


女性医師支援センター便り

みやぎ県南中核病院における
仙南地区女性医師支援セミナーの開催

宮城県女性医師支援センター委員
山本 蒔子

宮城県女性医師支援センターは、事業として、宮城県内の主な病院をセンター委員が訪問して意見交換を実施している。平成30年度の最初の病院訪問は、4月25日（水）みやぎ県南中核病院であった。

みやぎ県南中核病院の現状

副センター長の佐々木悦子先生の司会で会はずすめられ、はじめに内藤広郎院長のごあいさつがあった。医師国家試験の合格者の34%が女性医師という時代であり、女性医師の働き方を支援することは大きな課題になっている。当院は医師が96名であり、その内女性医師は13名の13.5%を占めている。若年層だけを見れば30%程度に達していると思われる。また、消化器外科学会の状況を見ると、学会員の女性医師は17%になっている。今後の問題として、学会評議員や理事に女性医師を増やす、専門医の更新ができない女性医師にはeラーニングを取り入れる、支部にも女性医師の部会を作るなど、学会としても取り組んでいる。医療現場としても女性医師が活躍できるように支えていきたい。6年前の平成24年に、当院への訪問があった時には、医師数は約70名で、女性医師は1～2名であった。その後、仕事しやすい病院を目指してきて、現在のように人数も増えている。とお話しされた。

NO PHOTO

内藤広郎院長

卒後13年目の女性内科医の現状報告

センター側からは、櫻井芳明宮城県医師会副会長があいさつされ、センター長の高橋克子先生が、今までのセンター事業についての紹介をされた。続いて、みやぎ県南中核病院医師の坂田英恵先生の講演に入った。

坂田先生は、6年前に、ある病院に勤務していて、産後のフルタイム復帰を求められて受け入れられず退職し、育児ノイローゼになり、仕事を続けるかどうか悩んでいる時期であった。その時に、たまたま、私達が当病院を訪問して、内藤院長に坂田先生の状況をご相談したところ、うちの病院で働いてはどうかとのありがたいお申し出をいただき、その後、坂田先生は医師を辞めずに、働くことができたという経緯があった。センターの活動によって医師を続けることができた坂田先生の例は、センターの活動の成果であると思われた。

NO PHOTO

坂田英恵先生

坂田先生は「卒後13年目の女性内科医の現状報告 仕事と育児」をお話しされた。医師としての仕事と育児の問題に直面して6年であるが、いまだにそのバランスについて自問自答の日々である。仕事にも家庭にも希望を持って取り組んでいるのは、みやぎ県南中核病院が多様な働き

方への理解があり、実践されていることに尽きるとされた。

みやぎ県南中核病院副院長の井上寛一先生からは、「これからの地域医療の充実は女性医師の力なしでは困難です。臨床の場から長期離脱することにより、持てる能力がその後発揮できなくなる女性医師がいることは、社会にとっても大きな損失です。いろいろな事情で生活が左右されることが多いと思われませんが、継続は力です。どのような勤務形態であれ、臨床の場から離れないようにしてください。当院で働いていただけるのであれば、院長も私もできる限りのサポートをするつもりです。」とのメッセージをいただいたことを紹介された。

病院における勤務形態は常勤（週5日勤務，時間外勤務免除）として，週1回の外来・病棟勤務，週2，3回の午前中の内科救急当番，週1回午前中の循環器内科救急当番をされている。このような勤務が可能なのは，当院の体制と周囲スタッフの理解のたまものであると話された。

一方，先生は，病院勤務後に第2子と第3子を出産されて，6歳男児，4歳女児，2歳男児の母親である。近隣の市に住む，母と祖母が幼稚園への送迎，育児，家事補助を担当している。そのために実家の家事を父が担っている。帰宅後は夫と協力して，家事と育児を分担している。夫は共働きへの基本的な理解はあり，子供たちと遊んだり，よく面倒見てくれるのには感謝している。しかし，妻の仕事への比重が高くなるとご機嫌が悪くなり，ストレスとなってしまうなどの悩みを話された。

今後の課題は，仕事の上では，臨床技能の向上，学会発表や論文作成，時間外勤務（当直や待機）への復帰を目指すとし，プライベートでは，夫との良好な関係や子供の健全な発達のサポートを考えておられた。

みやぎ県南中核病院の院内保育所の運営

病院総務課の二瓶武志氏による「院内保育所について」のご報告があった。院内保育所は平成24年10月15日に開所し，愛称は「オガレ保育園」で，東北の方言のおがれ（育つ，大きくなる）と大河原のオをかけて，「大河原町の子どもたちが丈夫にすくすく育つように」との願いも込められているそうである。3歳児までの15人定員から出発し，平成27年には増築し30人定員となっていた。保育料は安く設定されて，延長保育，一時保育および24時間保育なども実施されて，特に24時間保育は無料であり，夜勤ができる看護師を優先しているとのことであった。

意見交換

その後，質疑応答に入り，センター長の高橋克子先生は，坂田先生を病院がサポートしたのは先生がとにかく仕事を続け，育児に余裕ができた時フルタイム復帰する気持ちが強かったためであると指摘された。当病院の若い女性医師からは，先輩がこのようにしっかり働いていることに感心した。自分自身がこのようにできるか心配であるとの感想があった。センター委員の新妻先生（国立病院機構仙台医療センター）は夫との家事については，お互いが機嫌のよい人であるよう努め，家事の成果が見えるようにする，とアドバイスされた。安藤由紀子先生（金上病院）は，金上病院では，女性が働き易いようにするために個々のニーズを聞く部門があると話された。山本は，若い世代の女性医師が夫と家事を分担していることは素晴らしい，昔は考えもしなかったことである。育児及び家事への男性の積極的な参加を進めていくべきであろう。また保育園については病後児保育も検討してほしいと希望を述べた。

結び

みやぎ県南中核病院への訪問は平成24年，平成27年と今回で3度目であり，平成25年には内藤院長が女性医師支援セミナーのシンポジストとして講演をされるなど，宮城県女性医師支援センターの活動へ大いに貢献していただいている。今回のセミナーも，病院職員の多数の参加があり，院長はじめ病院が女性医師支援に熱心に取り組まれている姿勢に感銘を受けた。